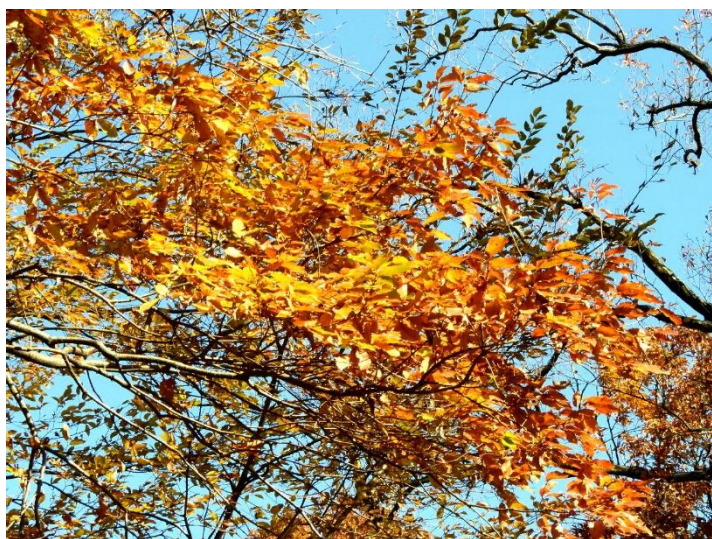


2020.12.14

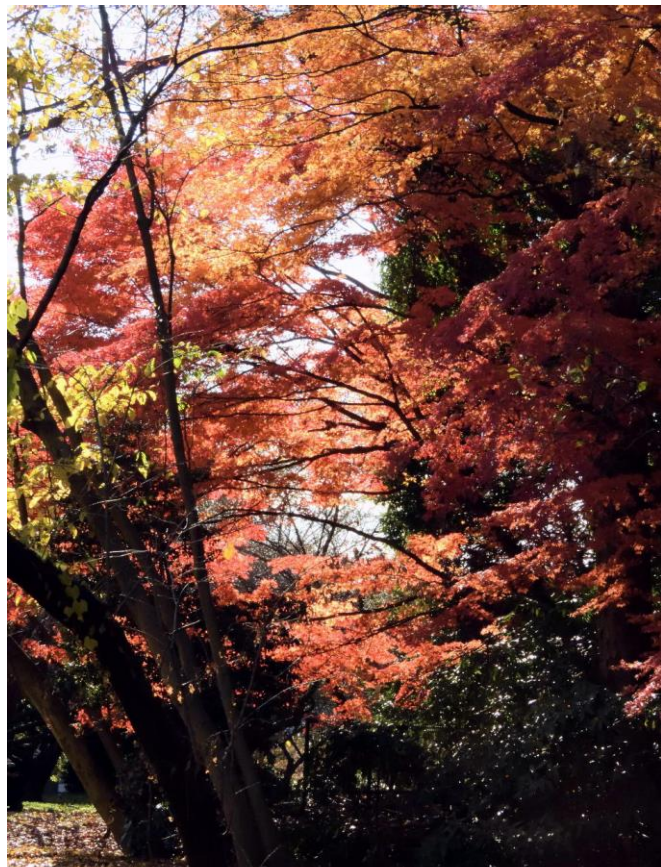
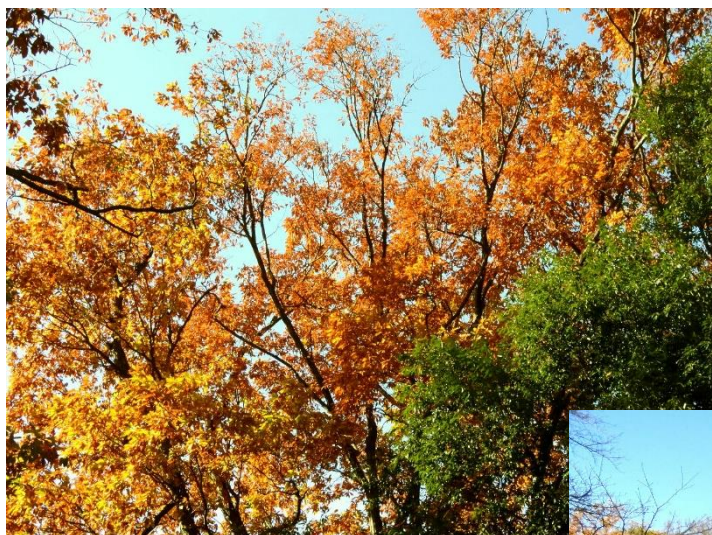
Report from
AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

年内最後のモニタリング活動 なぜだか紅葉がきれいなこの秋でした



コナラの紅葉 ↑ 赤塚城址 ↓ 八丁目の林



イロハモミジの紅葉 ↑ 赤塚城址
↓ 城址本丸秋の情景

見出しにわざわざ「なぜだか」と断りを付けたのは、美しい紅葉は普通、温暖な気候から急に冷え込みがきて、それが続くと実現するのですが、今年の東京の冷え込みはそれほどでもないように感じました。でも、暖かい陽気の戻りもそれほど急激でなく、11月下旬から



は比較的安定的に気温が下がってきたのが木々の葉の色付きを進めてきたのかもしれませんが。

とにかく、今年の赤塚公園の紅葉は例年になく美しく、写真撮影を楽しんでいる来園者の姿も多く見られました。

紅葉と同時に春の新葉展開とは・・・ 秋が遅くまで続き、春が早く来る、つまり冬が短くなる！



でも、喜んでばかりもいられません。

左の写真は **ヨモギ** ですが、今頃から翌年の春の若葉を伸ばす頃までは葉枯れ状態になるのが普通なのに、同じ株で紅葉と若葉の芽生えが同時に進行しています。

同じことは右の写真の **ノゲシ** にも言えます。冬を迎えて葉の緑色が失われる、ということは葉緑素による炭酸同化作用を停止して休眠期に入ろうかという時に、もっとも生命活動が旺盛になる開花が観られるわけです。これって、おかしいと思いませんか？

このモニタリング活動は 2016 年に、春に咲くニリンソウが真冬に咲き、サツキツツジが秋の紅葉を始めたのに開花したのを見た観察者がこの状態をもっと注意して観察しようと思って始めたものでした。この 5 年間でこのおかしな現象は他の植物にも広がっているということです。「地球温暖化が暮らしの足元にやってきている」わけです。それを確かめるには少なくとも 10 年間は観察を続けなければならないので、来年もモニタリング活動を続けます。

6年目に入るモニタリング(植物観察・記録)活動 社会貢献にもつながっています



自然が好きな方ならだれでも参加できます。最近ではみなさん熱心にメモを取りながらの観察。時には簡単な手入れも行って、赤塚公園の自然の維持のために「役



に立つ活動」(社会貢献)にもつながってきています。

2021年1～2月の予定 1/11、1/18、2/1、2/8、2/15、いずれも9:00スタート

赤塚ため池公園梅林下集合→大門地区へ 雨天は小雨でも中止

お問合せは赤塚公園サービスセンターまで ☎03-3938-5715